中央家畜市場通信

令和６年２月号

八幡平農業改良普及センター作成

早春施肥で1番草収量を確保しましょう！

１　採草地の年間収量は１番草の収量で決まります！

オーチャードグラス主体草地では、**年間収量（乾物）の半分以上を１番草が占めています**（年３回刈りの場合）。

これは、**１番草の生育時期が最も旺盛**であることと、１番草には**重量が大きい有穂茎**（出穂茎、穂ばらみ茎）**が多く含まれている**ことに由来します。

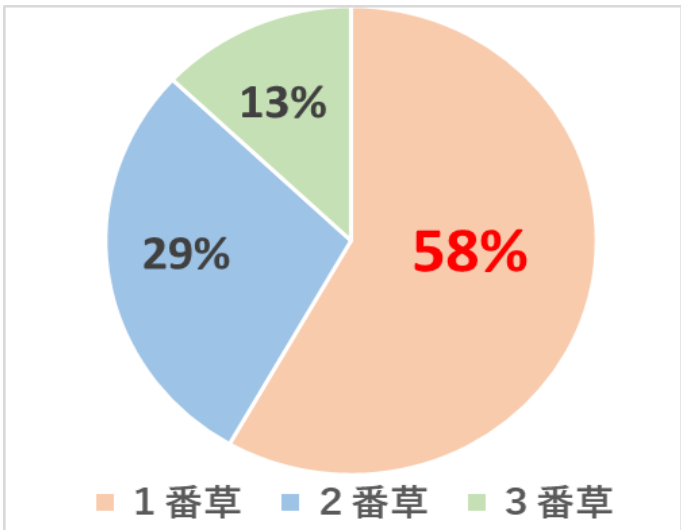

図１　R5年間乾物収量に占める各番草収量割合（%）
（岩手県の各普及センターの生育調査圃データより）

１番草収量の増加が年間収量の増加につながります！

２　１番草の収量を増やすポイント

１番草収量を増やすには「**分げつ茎数**」と「**分げつ重量**」を増やす必要があります。ポイントは①**秋施肥**と②**早春施肥**です。

＜分げつ茎数に関与＞

①前年秋の施肥

分げつのタイミングでの施肥が、分げつ茎数の増加につながります。

⇒オーチャードグラスの場合は秋に分げつするため、**最終番草刈取後すぐ（刈取危険帯前の９月中下頃までに！）の施肥が重要**です。

堆肥は緩効性であるため、前年秋に堆肥散布していても**早春施肥が必要**です！
即効性のある化学肥料を施用しましょう。

＜分げつ重量に関与＞

②早春施肥（施肥のタイミングと施肥量が重要！）

・有穂茎は穂を支えるために茎が太く重くなっています。
・**有穂茎の割合の増加が１番草の収量増加に直結**します。
・越冬した牧草の茎は、**早春施肥の肥料養分（特に窒素）により有穂茎となる割合が増える**ため、牧草の萌芽※1開始と同時に**なるべく早く※2施肥を行う必要があります**。

※1　青い新しい芽が草地に見えてきた頃（３月下旬～４月中旬）
※2　トラクター作業で草地を傷めるような場合は無理をしないこと

・**施肥量は施肥基準**に基づき決定しましょう。

表１　施肥基準
（岩手県 牧草・飼料作物生産利用指針）

草地種類	早春施肥量(kg/10a)		
	窒素	リン酸	カリウム
採草地（オーチャードグラス又はチモシー主体）	10	5	10

草地211の場合は50kg/10aの散布となります

３　施肥効果を得るには「土壌ｐＨの矯正」が重要

図２は、土壌ｐＨと肥料成分の利用度を模式的に示したものです。

土壌ｐＨが適正でないと、肥料成分の溶解性・可溶性が下がり、牧草が肥料成分をうまく吸収できません。

県内の採草地における土壌ｐＨの平均値は5.79（R5年度：215点の平均）と、適正ｐＨ（6.0～6.5）よりも酸性化が進んでいます。
点線で囲んだｐＨ6.0未満の酸性の範囲では**どの肥料成分の利用度も低下**しており、肥料を散布しても**十分な効果が得られません（無駄になってしまう）。**

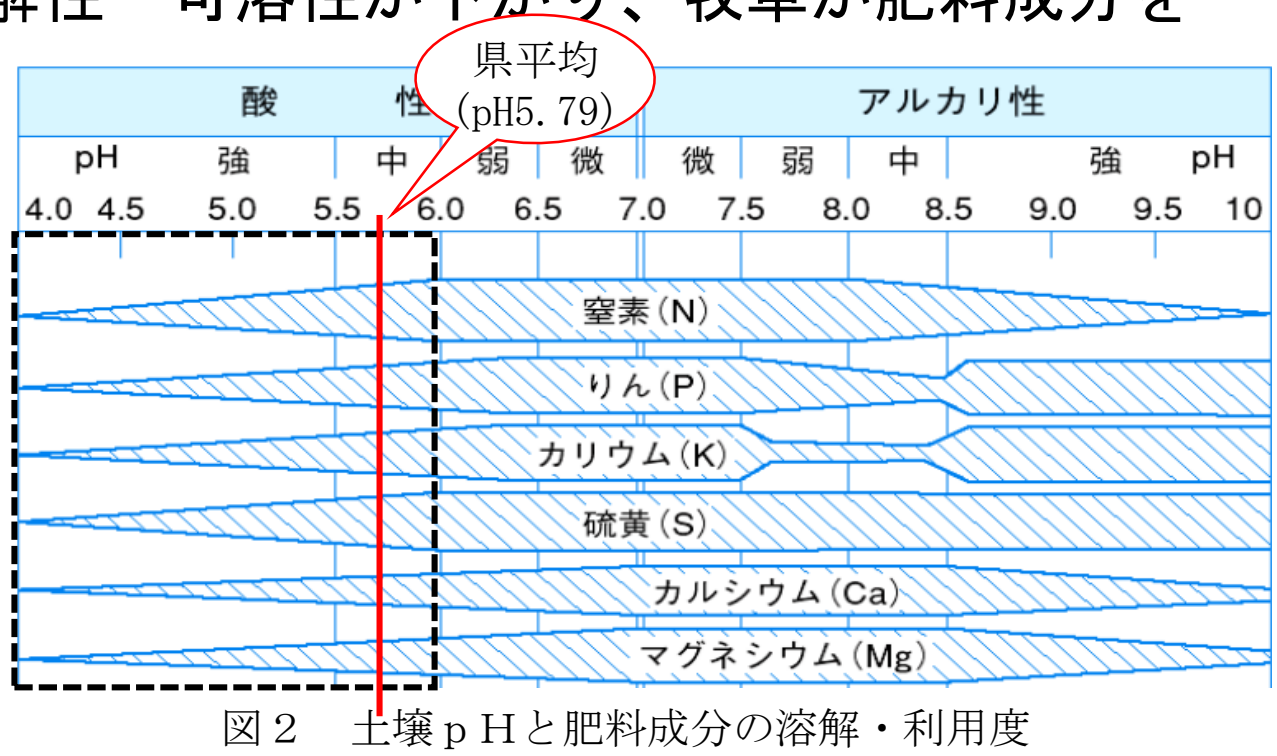

図２　土壌ｐＨと肥料成分の溶解・利用度
（土づくり肥料推進協議会2004より）

土壌中のカルシウム・マグネシウムは、牧草が吸収するほか、雨等により土壌から流亡するため、これらを施肥していないと**草地のｐＨは年々低下**します。

土壌ｐＨ維持のため、40kg/10aを目安に毎年早春に石灰質資材（炭カルや苦土炭カル）**を表面施用**しましょう。

※上記は**草地更新を行わない場合の施用量の目安**です。数年に１度は土壌診断を実施し、分析値を基に施用量を決定しましょう。

≪子牛を大きく育てよう！≫～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→

○ 育成牛の飼養環境について

育成期間の管理は、その後の産肉性や繁殖成績に大きく影響します。環境を整えて、育成牛の発育向上と疾病予防に努めましょう。

１　採食・飲水量の確保

■ 育成牛の体格に合わせ、飼槽の高さを調整し、育成牛が**十分採食できるように**しましょう。

■ 育成期には飲水量も増加します。**清潔な水をいつでも、十分な量を飲めるよう**にしましょう。**冬場はお湯**にすると良いです。

残飼やゴミは取り除く

２　衛生対策

■ **病原体を牛舎内に持ち込まない**よう、牛舎入口に**踏込消毒槽等を設置**しましょう。

■ 定期的に**牛舎消毒を実施**し、感染症を予防してください。

■ 天井や梁に積もったホコリの中に、細菌や菌体毒素が残留していることがあります。**天井部分も忘れずに掃除**しましょう。

３　換気と保温

■ **冬こそ換気が重要!!** 換気により、アンモニアガスによる呼吸器病を防ぐことができます。

■ **牛床を乾燥状態で維持!!** 敷料は小まめに入れ替えることが重要です。

■ **敷料は厚く敷く!!** 敷料が厚いと、空気層が多くなり、保温効果やクッション性が高まります。寝る部分だけ厚く敷く生産者もいます。